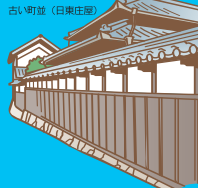
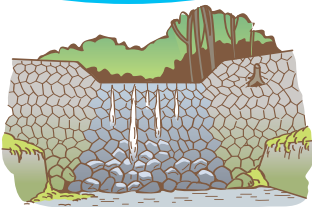


妻木 てくてく いにしえ ロマン



古い町並 (日東庄邸)

- ① 文化財堰堤と妻木町を巡るさんぽコース
- ② 文化財堰堤、妻木城跡と上郷地区等を巡るさんぽコース



浦山第二砂防堰堤



崇禪寺

妻木砂防遺産のある町さんぽ構想協議会

~いにしへの記憶をたどる妻木のみち~ 妻木町の歴史にふれ、砂防を知るさんぽコース

歴史文化のまち妻木町は 古くから土砂災害に悩まされてきました。

岐阜県の文化財に指定されている妻木城跡や妻木城土屋敷跡、室町時代から続く崇禪寺、約400年前に城主が一頭の馬を神社に寄付したことに始まるといわれている八幡神社の『流鏑馬』、砂防技術史、地域史等の価値が認められ、平成18年に登録有形文化財に指定された『浦山第二砂防堰堤』など、他に誇れる歴史文化に彩られた妻木町。しかし、町内を流れる妻木川だけでも100基を超える砂防施設が設置されているほど、妻木町は土砂災害の危険性の高い地域でもあります。

なぜ妻木町は 土砂災害の危険性が高い？

陶磁器の生産地として知られている土岐市・多治見市は、かつて陶磁器を焼くための燃料として山林の木々を伐採していたため、日本有数のとくしゃ地*に数えられるほど山地の荒廃が進んでいました。荒廃した山地からは、雨水などいっしょに土砂が流れ出し、土砂災害を引き起こします。また、川の底にたまっていく土砂は、河床を上昇させ、洪水災害の原因となっていました。

さんぽを通じて妻木の歴史文化と砂防を 気軽に楽しく体験・学習。

川の近くの市街地化が進み、山の近くまで家や工場などができたことから、妻木町は以前にも増して土砂災害への危険性が高まっているといえます。

そこで、文化財堰堤や、妻木町の歴史文化を巡る『さんぽ』を通じて、地域にお住まいの方々や小中学生、妻木町を訪れる観光客などが地域社会における砂防との関わりを気軽に楽しく体験・学習できるよう『さんぽコース』をつくりました。



産業全盛の頃の妻木町



木々の乱伐のため荒廃した山林



山林荒廃によって引き起こされた土砂災害

※とくしゃ地

山林の乱伐等によって植生のなくなった山の斜面は、降雨による浸食・風化などにより表土が流失し、ますます植生が育たなくなる。このような箇所を「とくしゃ(禿樹)地」と呼びます。『禿』は「そお(そほ)」と読み、茶色に近い、暗い赤色のような色。土の色名の一つを示します。

4つのさんぽコースで 妻木町の“いにしえロマン”を感じる。

異なる距離や地域、楽しみ方ができるようさんぽコースは全部で4コース。



0 100 200 300 400 500m

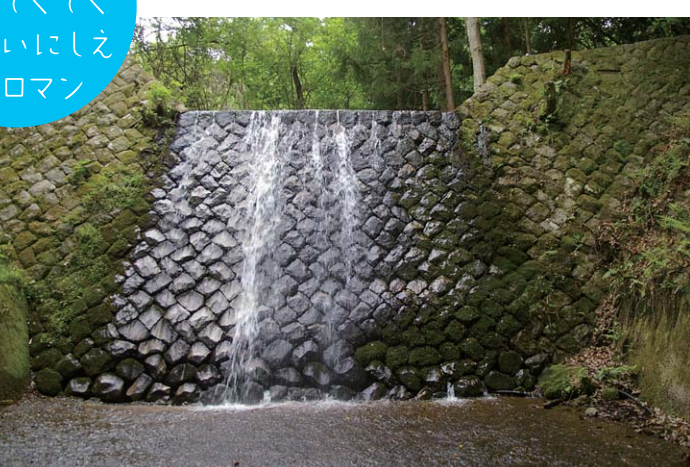
さんぽコース①
文化財堰堤と妻木町を巡るさんぽコース

さんぽコース② [未整備]
八幡神社から山寺地区と堰堤を巡るさんぽコース

さんぽコース③
文化財堰堤、妻木城跡と上郷地区等を巡るさんぽコース

さんぽコース④ [未整備]
文化財堰堤等と妻木城跡を巡るトレッキングコース

妻木 てくてく いにしえ ロマン



浦山第二砂防堰堤

MAP A-2

昭和18年(1943)8月25日に完成した、昭和時代としては珍しいコンクリートを使用しない砂防堰堤です。間知石*1を矢羽根積*2した堰堤で、この構造は国内でもこの地域以外では例がないといわれています。この地域には古くから多くの石工がいたといわれ、受け継がれた高度な石材加工・石積技術と戦時中の物資不足が堰堤構造に反映されたと考えられます。現在では再現することの困難な施設として平成18年には有形文化財に登録されています。

※1 間知石(けんちいし)

石積みを使用される四角すいの形に加工した石材。四角すいの底面が表に出るよう積みます。

※2 矢羽根積(やばねづみ)

長四角の石を斜めにずらして平行に並べ、上の段の石は下の段と90度傾けて並べる積み方です。

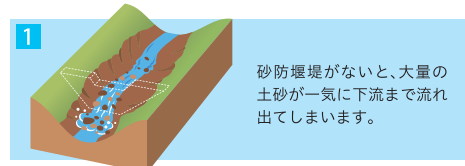


砂防堰堤
上流から流出してくる土砂を貯め下流への被害を防ぎます。

山腹工
荒れた山に木や草を植えて、斜面の表面が侵食されるのを防ぎます。

床固工
川底や川岸の侵食を防ぎ、洪水や氾濫が起これないよう安全な川にします。

砂防堰堤のはたらき



主な砂防施設

県道沿いにある「オレンジ」の案内看板が目印

堰堤以外にもいろいろな砂防施設があります



八幡神社

MAP D-3

地元から八幡様と親しまれています。源頼朝が鎌倉幕府の守護神として鶴岡八幡宮を建立して以後、武士の守り神として各地に勧請されています。妻木の八幡神社の創立年代は定かではありませんが、土岐明智氏が妻木を本拠地と定め居住するようになった頃、氏神として現在の地に建立したといわれています。



八幡神社流鏑馬

元和年間(1615~1623)に妻木城主が八幡神社に一頭の馬を寄進したことに始まるといわれています。明治維新の八幡神社の社領没収に伴い一時中断しますが明治14年に復活。現在は、10月第2日曜日に催され、乗り手を務める妻木小学校の4~6年生の少年が陣笠陣羽織姿と江戸時代の衣装を再現した古式衣装で合計6回、参道を駆け上げられます。

参道を駆け上がった馬と乗り手は、縁起物の扇子と鞭(むち)を観衆に投げ入れながら元の位置に戻ります。

↑ 乗り手が投げ入れる縁起物の『鞭』

妻木町の歴史に“てくてくロマン”



つまぎじょうあと

妻木城跡

MAP A-2

妻木城は妻木町を見下ろす標高409mの城山の山頂に築かれた山城。山頂には曲輪や堀切、土居などの遺構が残されています。いつ築城されたか定かではありませんが、一説には暦応2年(1339)に土岐明智彦九郎頼重が、祖父である頼貞の遺領を継ぎ、妻木郷の領主になった時といわれています。江戸時代初期の城郭遺構が、居館や家臣団の屋敷、城下町を含めて残されている例は全国的にも極めてまれで、岐阜県史跡に指定されています。



妻木城土屋敷跡

MAP B-2

城山に登る坂道の両側に位置する。屋敷敷地を区切っていた石垣、庭石や石段、井戸などが現在も残されています。城に近づく程、身分の高い武士の屋敷で、一番奥には交代寄合(参勤交代をする旗本)妻木氏の陣屋がありました。



そうぜんじ

崇禪寺

MAP C-2

この地を領した土岐明智氏の祖、彦九郎頼重が菩提寺として文和3年(1354)に創建したといわれています。鎌倉時代の作風を残す釈迦如来立像や夢窓国師筆「果山」などの岐阜県指定文化財をはじめ、寺宝として多くの文化財が保存されています。



妻木稲荷神社

MAP C-2

崇禪寺の鎮守の神として、商売、豊業を願う地元の人々が参詣する妻木稲荷神社は、嘉永年間(1848~1854)に、京都伏見稲荷の分霊を迎え祀ったのが起こりとされています。



GIFU 岐阜県 土岐市

土岐市は、岐阜県の東南部に位置し、その約7割を丘陵地が占める緑豊かなまちです。良質な陶磁器用粘土が豊富に採れることから、1300年以上の歴史がある美濃焼の産地として発展し、今もその文化を引き継いでいます。近年では、中央自動車道・東海環状自動車道の高速交通網の整備により、交流都市としての魅力を高めています。

土岐市の中程に位置する古い城下町。面積は15.53km²。1955年2月1日に妻木町を含む土岐郡の8町村が合併し土岐市となりました。美濃焼の産地として知られています。また、土岐市内にある文化財の約40%が妻木町内にあるなど(平成25年10月1日現在)、歴史文化の残された地域でもあります。



城山の妻木城跡からは妻木町が一望できます。

(妻木町へのアクセス)

- ・JR多治見駅より.....バスで約30分
- ・東海環状自動車道 土岐南多治見ICより.....車で約10分
- ・中央自動車道 土岐ICより.....車で約20分

地元ガイドがさんぽコースをご案内します。詳しくは、下記までご連絡ください。

TEL.0572-57-6441
(八幡神社社務所内 妻木城跡の会事務所属)

妻木城跡の会
〒509-5301 岐阜県土岐市妻木町3051-1
ホームページ <http://www.tumagijyou.com/>

妻木砂防遺産のある町さんぽ構想協議会

[事務局]

国土交通省中部地方整備局 多治見砂防国道事務所
〒507-0023 岐阜県多治見市小田町4-8-6

